

やすらぎ

医療法人社団 芙蓉会
ふよう病院
千葉芙蓉病院
きゃらの樹ケアセンター



芙蓉会社内報

令和元年10月号

芙蓉会

理事長挨拶

医療法人社団 芙蓉会 理事長 四ヶ所 大

スポーツの秋と言いますが、今回初めて日本で開催されたラグビーワールドカップは、日本代表のベスト8進出に酔いしれました。運良くスコットランドとの試合を横浜で観戦できましたが、30数年前に当時の国立競技場や秩父宮ラグビー場で観戦した大学ラグビーのレベルとは段違いのパワー、スピードに興奮し、選手たちへのリスペクトが増すばかりでした。

実は前回のワールドカップから気になっていたのが、代表に外国出身選手が多数登録されていることでした。一部の方々から「日本人だけで代表を選出した方が…」という声がある事は認識しておりますが、私が感じたのはこれこそ今後の日本社会が学ぶべきあり方ではないかということです。「ONE TEAM」と称された、多民族の一致団結した活躍によって、見事な結果を出せたわけですから。

医療介護業界のみならず、今後の少子高齢化による人口構造の変化は、周知のとおりです。今回の消費増税を期に、事業をやめたり店舗を閉めてしまったという話も耳にしますが、最大の要因が雇用環境の悪化であるのは目に見えており、外国人労働者が働きやすい職場環境の提供が必須の時代でもあるわけです。業種によって考え方の相違が多少あったとしても、中長



期的な雇用環境維持は避けては通れない時代です。今回のラグビー代表を見習うべく、未来志向の考え方を共有し、雇用環境の確立を願うばかりです。

さて、芙蓉会は11月から介護医療院への転換準備を本格化致します。スタッフへの説明会を皮切りに、ご利用者家族、地域住民等への説明会も開始いたします。この「やすらぎ」の中でも、度々コメントしてきましたが、「介護療養病床廃止」発表から、10数年越しの転換作業であり、この間、多くの有識者のアドバイス、発信される情報を取りまとめて参りましたが、まさに「備えあれば憂いなし」。準備の重要性を改めて感じております。今後も地域に根差し、ご利用者の皆様に安心していただけるサービス提供を継続していく所存でございます。

「老人は国の宝」

医療法人社団 芙蓉会 (事業所一覧)



- ・ふよう病院
- ・芙蓉ミオ・ファミリア町田
- ・グループホームあおぞら
- ・デイサービスふれあいルーム
- ・千葉芙蓉病院
- ・きゃらの樹ケアセンター
- ・千葉芙蓉ハーモニー
- ・千葉芙蓉ステーション

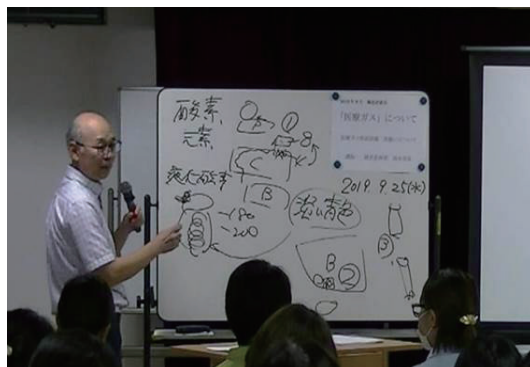
院内職員研修会報告 9月開催

「医療ガス」研修 医療ガス供給設備・取扱いについて

発行者 清水 経営企画室長（資料提供：日本メガケア）

当法人内における医療ガスの供給体制について、液化酸素のボンベ庫や予備のボンベの設置場所、配管の状況等を説明し、メーカーから提供していただいた医療ガスの取り扱いに関するDVDを視聴後、取扱いの注意点を解説した。

酸素については爆発する危険性もあるため、配管等に異常を発見した際は、すぐに報告をするようお願いし終了した。



院内職員研修会報告 10月開催

必修研修 感染②「医療施設における環境整備」

発行者 東京サラヤ株式会社 長谷 様

医療施設における環境表面からの感染リスクと、その対応策および予防方法について説明していただいた。微生物の生存期間が体外に出た後も長いことや、手順に沿った業務ができたとしても、やはり手洗いが感染対策で一番重要であること。また、予防は100人の職員のうち、1人でもできていない人がいれば、99人がしっかり取り組んでいたとしても、できていないことになってしまう、その努力が消えてしまうことになるということを改めて皆で共有しました。全員が真面目に取り組むことで、アウトブレイクしても最小限にとどめる事が出来るような施設であっていただきたいと締めくくられた。



令和元年度自衛消防技術発表会

経営企画室長 清水弘道

令和元年 9 月 12 日（木）に、町田消防署において令和元年度自衛消防技術発表会が開催されました。

今年は、町田市内から 1 号消火栓の部に 8 事業所 9 隊、2 号消火栓の部に 10 事業所 11 隊の合計 18 事業所 20 隊 49 名の精鋭が参加、芙蓉会自衛消防隊は、2 号消火栓の部にエントリーしました。

この発表会は、緊急地震速報が流れた際の初動措置、その地震により火災が発生したとの想定のもと、消火器や屋内消火栓での消火活動と院内の方の避難誘導を行い、その技術を競う大会です。今年は、最後に三角巾を用いた包帯法による止血が新たに追加されました。

芙蓉会自衛消防隊隊員 2 名は、7 月中旬から約 2 か月間にわたり業務終了後に厳しい訓練を積み重ねた結果、見事に最優秀賞（優勝）を獲得いたしました。

今後とも、職員全員が防災防火に対する知識を深めるとともに、実践に即した訓練を続けることにより入院患者様入所者様ならびに地域の皆様に安心と安全を提供してまいります。



昼食前のレクリエーションタイム

病棟では、お風呂のない日の昼食前に 20 分ほど病棟ごとにレクリエーションの時間を設け、体操や風船バレーをしたりしています。

はじめに、皆さんと日にちの確認をして、それにまつわる今日の事柄や季節のお話をします。皆さんからの声がたくさん出て、気持ちも乗ってきたところで体操へ。

深呼吸、首の体操から上半身、下半身にかけて徐々に身体をほぐしていき、指折りやじゃんけんなどをしながら指もしっかりと動かしていきます。

少し身体をほぐしたところで、今度は手拍子や足踏みをしてリズムを取りながらソーラン節や炭坑節をスタッフも一緒に皆さんで元気よく大きな声で歌います。

最初は固い表情だった患者様も、身体を動かしながら歌い終える頃には笑顔がたくさん見られるようになります。最後に深呼吸をしっかりとって体操は終わりです。

風船バレーは大きめの風船を使い、風船を床に落とさないようにスタッフへはじき返してい

きます。少しずつ続けられるようになると目標回数（10 回～30 回）を皆で協力しあいながらパスし合っていきます。風船を落とさず長くパスを続けられた時は、皆で拍手をしたり、ハイタッチをしたりと大盛りあがりです。

このように、お昼前の少しの時間を患者様、スタッフ皆で楽しみながら過ごしています。リフレッシュして、さあ、おいしくお昼ごはんをいただきます。



ふよう病院敬老祭り開催

毎年恒例のふよう病院敬老祭りを、9月14日（土）の午前中は患者様向けに、午後は一般の方向けに開催しました。

今年は新たな模擬店に『パン工房ほろほろ』さんの販売が加わり、早朝から焼いた450個のパンが届くとあっという間に売り切れに。屋外の催しは、昨年に続き町田市立南中学校の和太鼓部が元気いっぱいに日頃の成果を披露してくださり、1曲ごとに大きな拍手が起こりました。力を合わせて一心不乱に演奏する姿を見るだけで自然と涙が溢れてきました。

他にも病院職員による各種模擬店をはじめ、キーボード生演奏や大道芸人さんによるバルーンアート、鉄道模型の展示、骨の健康チェック、NPO法人「日本アニマルセラピー協会」よりセラピー犬8頭が来てくれ、学童クラブや保育園などのお子様から幅広い年齢の方々で大変盛り上がりました。

午後の講演会では、ふよう病院の佐藤院長より「檜山節考より 現代の終活を考える」のテーマで行われました。来場された方のアンケートには「終活について大きなテーマをいただいたと考えさせられた」（同様多数）「スライドによるお話はとてもわかりやすく、心に沁みた」「佐藤院長に父はお世話になりました」等のお声をいただきました。

講演会終了後は、施設見学を御希望される方のご案内と終日開催していた相談コーナーも多くの方がご相談にお越しくださいました。

ご来場いただく方のアンケートに、「初めて来ました」「普段はなかなか入る機会がないので参加できて良かった」というお声が毎年あります。敬老祭りのような催しを利用してお越しくださり大変嬉しいです。地域包括ケアシステムの中で、普段からもっとふよう病院を身近に感じてもら



院内研修報告

睡眠時無呼吸症候群について

発行者 篠原 昌夫 先生

昨今、耳にすることが多くなった「睡眠時無呼吸症候群」ですが、専門の先生からお話を聞く機会を得ましたので報告いたします。

症状・徴候は、いびき、日中の傾眠、知性の低下、性格の変化、起床時の頭痛、幻覚・自動症・呼吸困難（特に労作時）、不眠症、インポテンツ、肥満、不整脈、多血症、肺高血圧症（肺性心）、高血圧、浮腫、夜間多尿 などです。特に、肥満、いびき、起床時の頭痛、熟眠感の欠如、日中傾眠、居眠り運転などの所見が見られた場合、睡眠時無呼吸症候群が疑われます。高血圧、心疾患、糖尿病、脳卒中などの成人病と結びついている

疾患でもあります。

外来受診しスクリーニングを受けて診断されたら、下記のような治療を行います。

- ① 減量療法：生活習慣改善、適度な運動、飲酒を控える、等
- ② CPAP 治療：自宅で行います。睡眠中、器具を使用し呼吸を正常化させます。

他にも、耳鼻科的治療・口腔内装具を用いる治療もあります。治療により、生命予後を改善するという統計もあります。CPAP 治療は、今後、千葉芙蓉病院の外来（篠原先生）でも導入する予定です。詳細は外来にてご相談ください。

台風災害のお礼

9月9日未明に上陸した台風15号により、千葉芙蓉会も大きな被害を被りました。最も大きな被害は観測史上最大の風によるもので、近隣の杉林はまるで旅客機が不時着でもしたかの様になぎ倒され、それら倒木により長時間停電しました。備えていた発電機で最低限の生活は保てましたが、冷房まではカバーしきれず、入所の皆さんには蒸し暑い思いをさせてしまいました。断水に対しては地下水を利用した処理プラントをすでに有しており、事なきを得ました。

市内の他の施設では熱中症で亡くなられた方もいたようですが、当法人では防ぐことができ、

不幸中の幸いでした。自宅が被災した職員も、予定通りに勤務してくれ、また、飲料水、食料などたくさんの救援物資を各関係の皆様からいただきました。紙面をおかりして御礼を申し上げます。

その後の19号は停電もなく、やり過ごすことができましたが、北関東を中心に多くの方が水害に遭われ命を落とされました。一刻も早い復旧をお祈りいたします。

これらの経験をふまえ、さらに安全・安心な病院、施設をめざしていきます。